

2023年度 年次報告書



アジアのつながりを、未来の力に。

2023年、新しいビジョン・ミッションと2030年までの中長期計画を策定しました。

◎新しいビジョン

人々が温かいつながりのなかで共に生きる、
多様な“コミュニティ”に彩られた世界の実現をめざします。

《ビジョンに込めた思い》

今、世界では「自分たちの暮らす地域や国だけが良ければよい」という風潮が高まり、それが資源や土地の収奪を目的とした戦争や紛争、過度な人間による消費を元凶とした資源の枯渇と地球温暖化、それに伴う自然災害の多発、という形で顕著に表れています。

日本国内では、異なるルーツ、ジェンダーをもつ人々や、社会的に弱い立場に置かれている人々の存在を認め、多様性を重んじ、尊重し合うことの大切さが認識され、共感の輪が広まりつつありますが、その一方で、多様なバックグラウンドをもつ人々の存在や権利を認めず、偏見を改めず、排除するような状況は続いています。私たちACC21は、“自分さえよければよい”という考えに基づく、奪い合いや暴力のあふれた世界ではなく、人々が支え合うコミュニティにあふれた世界にしていくことを目指します。

ACC21は『コミュニティ』を、国や地域などの地図上で区切られた範囲だけでなく、特定の課題や関心をもつ人々やグループの集まりも含むものにとらえています。そして、そのような多様なコミュニティが集まる私たちの社会全体も、共に生きるひとつのコミュニティにとらえています。多様なコミュニティが、外に向けて開かれた視点を持ち、あたたかなつながりの中で、互いの違いを認め、尊重し合い、共存する世界とすることをめざし、このビジョンを掲げます。

◎新しいミッション

ACC21は、プロフェッショナルな“コーディネーター集団”として、
様々なリソース（資金、ひと、知識・情報など）を橋渡しすることで、
社会課題に主体的に取り組み、問題を解決できるよう貢献します。

◎2030年までにめざすこと

ACC21はビジョンの実現にむけて、未来の担い手である若者たちと共に、チャレンジします。また、そのために、あらゆる世代や様々なコミュニティと協働し、若者たちがこれからの社会を作っていくための環境を作ります。

チャレンジ1：若者たちと100のチャレンジを創成します。

チャレンジ2：「アジア若者みらい基金」を1億円規模の基金に育てます。

チャレンジ3：ACC21と共にチャレンジする100人規模のボランティアチームをつくります。

中長期計画の詳細については、ACC21のウェブサイトからご覧ください。

<https://www.acc21.org/news2023-2030plan/>



ANNUAL REPORT

2023/4/1 ~ 2024/3/31

目次

- 2 ● ごあいさつ
- 4 ● 主要事業一覧
- 6 ● フィリピン・ストリートチルドレン支援
- 12 ● 日韓みらい若者支援
- 18 ● 公益信託の事務局活動
- 19 ● 日比 NGO 協働推進
- 20 ● 知識・情報の普及
- 21 ● 政策・制度変革のための提言
- 22 ● たくさんの方に支えていただきました
- 23 ● 決算報告
- 24 ● 編集後記
- 25 ● 団体概要



2024年2月に実施した韓国スタディツアーでは、東北アジア地域平和構築インスティテュート（NARPI）を訪問しました。



2024年6月、新たに代表理事に就任いたしました。前任の伊藤道雄さんはACC21の創立者であり、20年近く先頭に立って会の活動を担って来られました。私はこれまで一理事として支える立場でしたが、これからは、私よりもさらに若い世代のリーダーシップをファシリテートしながら、皆さまとともにACC21をさらに前進させていければと思っています。

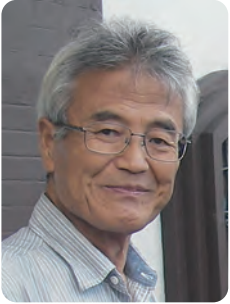
さて2023年6月に、ACC21の新しいビジョンが策定されています。「人々が温かいつながりのなかで共に生きる、多様な“コミュニティ”に彩られた世界」が、私たちが目指す社会の姿です。では、具体的には、それはどんな社会なのでしょう？

私が長年関わらせていただいているインドネシアのある村は、隣の島と結ぶフェリー港があって、インドネシア各地から来た、言葉も文化も多様な人たちが住んでいます。この村の今の課題はゴミ問題。増え続ける家庭や商店からのゴミ処理が追いつかず、ゴミだらけの村になっていました。「これではいけない!」と考えた村人のイニシアティブで、生ごみの堆肥化、プラスチックのリサイクル、道端や海岸のクリーンアップ活動等に、バリ人もジャワ人もブギス人も、イスラム教徒もキリスト教徒もヒンドゥー教徒も、一緒になって取り組んでいます。

一方、最近私がよく通っている、日本の南西部に位置するある離島には、世界自然遺産に登録された貴重な自然が残り、「島唄」「島口」「島料理」等、独特な文化が受け継がれています。しかし最近の子どもたちは自然や文化に触れる機会が減り、ゲームやSNSに多くの時間を使っています。島の素晴らしさを知らずに育った子どもたちは、高校を卒業して島を出たら、島のことを全く顧みなくなってしまう。そんな危機意識をもった大人たちが、子どもたちと高齢者をつなぎ、「島の宝」を一緒に再発見する活動を始めようとしています。

この二つの事例から見えてくるのは、「コミュニティ」を生み出そうとしている人々の努力だと思います。みんなが忙しく、周りの人にかまってもらえない今の社会では、「温かいつながり」や「多様なコミュニティ」は、努力して創っていく必要があるのではないのでしょうか。ACC21はまさに、そうした「コミュニティを創る」試みを日本の内外で広げようとしています。これからも、ACC21の挑戦を見守り、ご支援いただけることを切にお願い申し上げます。

代表理事 長畑 誠



2024年6月、ACC21の代表理事を退任いたしました。この場をお借りして、皆さまのこれまでのサポートとご協力に心から感謝いたします。

現在を生きる私たちは、過去からの延長線と、未来への出発点にいます。私はこれまで常に、過去の出来事を昨日のように思い出し、現在から未来を展望し、事業を組み立ててまいりました。

本誌で報告されている「フィリピン・ストリートチルドレン支援プログラム」(p.6～11)は、約50年前のフィリピン・マニラ湾でのストリートチルドレンとの出会いが、構想の原点になっています。夜遅く、道行く人からお金をせびる、そのやせ細った腕と笑顔を失った表情に衝撃を覚えました。その後、いろいろな経緯を経て、2018年に現地のNGOとの共同事業へと発展。本誌p.10～11では、事業を担当する辻本が、研修事業に参加した元ストリートチルドレンの現在の生活状況等について報告しています。彼女や彼らが自立し社会参加への道を歩んでいる姿をご報告できることに誇りを感じます。今後、さらにフィリピンとの連携を強め、「ストリートチルドレン“ゼロ”」に向けて事業が推進されていくことを願っています。

「日韓みらい若者支援事業」(p.12～17)は、日韓の政府関係が悪化した2019年に、日韓市民交流に取り組む(特活)AsiaCommons 亜洲市民之道に呼びかけ、共同で企画したものです。当時、ACC21の理事会では慎重論もありましたが、承認に至り、同年11月に若者らの参加を得て学習会活動を開始。その後、関係者・団体とのネットワークを徐々に広げ、学習会や“語り場”活動を重ね、関係団体のダイレクトリーを発行、そして23年度には韓国へのスタディツアーを実施するに至りました。ツアーに随行したシャープ(担当者)は、韓国の若者たちと一緒に何ができるかを真剣に考える機会になったと報告しています(本誌p.16～17)。道程は遠いですが、本事業の未来に灯りが見えてきました。

長畑新代表理事と鈴木副代表理事のリーダーシップの下で、ACC21が「人々が温かいつながりの中で共に生きる、多様な“コミュニティ”に彩られた世界の実現」に寄与していくことを切に願っています。皆さまのご支援をよろしくお願い申し上げます。

前代表理事(現・チーフアドバイザー) **伊藤 道雄**

ストリートチルドレン支援……➤

幼いころから路上で暮らしてきた若者たち 30 人に研修を提供し、自立を支援しました。また、起業を目指す修了生で構成された「若者起業グループ」の活動を支援し、実践的な学び合いの機会を提供しました(年度末時点で 31 人が参加)。さらに、フィリピンに約 37 万人いるストリートチルドレンを SDGs (持続可能な開発目標) の最終年 2030 年までに「ゼロ」にすることを目指すキャンペーンでは、225 万 6 千円のご寄付をいただき、現地での支援活動に活用しました。

➤ p.6



主要事業一覧 Main activities in FY 2023

知識・情報の普及……➤

2023 年度は、「ストリートチルドレン支援」「日韓みらい若者支援」などの事業に関連するイベントやフォーラム、学習会を積極的に実施し、合わせて約 450 人以上が参加しました(講師派遣・訪問受入を含む)。

また、今後さらに活動を発展させ、多くの方々に ACC21 やアジアの情報を届けていくために、中長期計画と新しいビジョン・ミッションを策定し、組織基盤強化に取り組みました。そして、新しいビジョン・ミッション象徴する「若者チャレンジ 100 募金」キャンペーンに取り組み、128 万 207 円のご寄付をいただきました。

➤ p.20





◀……日韓みらい若者支援

2023年度は「歴史と実践者から学び、考える北東アジアの平和」を大きなテーマに学習会を4回実施し、少人数でより深い内容について学び合う“語り場”活動を4グループで行いました。また、本事業初の韓国スタディツアーを実施し日韓の若者を中心に26人が参加。フォーラムでは1年間の活動を振り返り、成果を共有しました。これらの活動に日本各地や韓国から208人が参加しました。参加者の約半数が10～20代の若い世代で、世代間の交流や意見交換がオンラインで活発に行われました。

▶ p.12



◀……公益信託の事務局活動

ACC21は3つの公益信託の事務局として、アジア各地で実施される助成事業の募集や調査、評価などに取り組んでいます。2023年度は、アジア8か国（フィリピン、インドネシア、カンボジア、ラオス、インド、ネパール、バングラデシュ、日本）で実施された34事業（総額3,634万円）の助成事業を支え、約24,500人に支援を届けました。

▶ p.18

フィリピン・ストリートチルドレン支援



「Project Bamboo：路上で暮らす若者の自立支援プロジェクト」の半年間の研修を終え、修了式を迎えた若者たち（2023年9月）

フィリピンの都市部には、路上で寝泊まりをしたり、物乞いをする子どもたちの姿があります。このような子どもたちは“ストリートチルドレン”と呼ばれ、フィリピンでは少なくとも37万人の子どもたちが路上での生活を余儀なくされています。

子どもたちは、路上で家族と共に寝泊まりをする、あるいは昼間は路上で過ごし夜はスラムなどにある家に帰ります。また、親から虐待を受けたなどの理由で、家族から離れ、子どもだけで生活しているケースもあります。親の多くは貧困を背景に農村から都会に出てきたものの、衣食住や教育・医療費を賄うだけの収入を得られるような職業技能を

もっていません。

ACC21は、路上で暮らす子どもや若者の人権が守られ、安心できる環境で暮らし、路上を抜け出すことができるよう、2つの活動に取り組んでいます。2018年度に開始した「Project Bamboo：路上で暮らす若者の自立支援プロジェクト」では、一人ひとりの若者が自立し、路上の生活を抜け出せるように支援しています。2021年度に開始した「“ストリートチルドレン ZERO”キャンペーン」では、日比のNGOや政府機関、企業などと連携し、広くフィリピンと日本の社会にこの問題をうったえ、現地での取り組みを支援しています。

事業名

Project Bamboo：路上で暮らす若者の自立支援プロジェクト

活動と成果

- 路上で暮らす若者 30 人が自立のための職業技術や知識を習得しました。
- 起業をめざす修了生 31 人が「若者起業グループ」に参加し、ビジネスについて相互に学び合いました。

このプロジェクトは、ACC21 が現地パートナー団体のチャイルドホープ・フィリピン財団と協働し、フィリピンの路上で暮らす若者に技術や知識を学ぶ機会を提供し、安定した仕事につき自立できるようにすることをめざしています。2023 年度は、30 人の若者が研修を修了し、就職や自営のための職業技術や知識を身につけました。事業開始から 2023 年度末までに支援した若者の数は 150 人にのぼります。

30 人の若者が起業・就職のための知識・技術を習得

若者たちは、半年間の研修期間で、日常の様々な課題に対処するための考え方、適切な家計管理や貯蓄の方法、起業のための戦略の立て方、ホテルやレストランへの就職に役立つ職業技術、起業に役立つ生計技術（軽食の調理や生活用品の製造など）を学びました。これらの研修を通じ、若者たちは知識・技術だけでなく、目標に向かい努力する姿勢や自信を身につけました。

研修を修了した 30 人のうち 17 人は、「国家資格Ⅱ類」というフィリピンの政府機関が公的に認めた職業能力基準の試験に合格しました。修了後は、就職（6 人）や起業（2 人）、学業継続（11 人）、求職活動（11 人）など、より良い将来のため前向きに行動を起こしています。

若者起業グループに 31 人が参加

起業した、あるいは起業を目指す修了生がビジネスについて



生計技術研修で蒸しパンの調理方法を学び、蒸し上がりの状態を確認する研修生（2023 年 8 月）

学び合う「若者起業グループ（YEG）」に、31 人が参加し（2024 年 3 月末現在）、このうち 17 人が雑貨の販売、路上での食品販売、オンライン販売などの小規模のビジネスを行っています。

2023 年度は、グループのメンバーを対象に、起業に役立つ知識・技術をテーマとした 7 回の研修と 2 回のワークショップを実施しました。さらに、定期的にメンバーのビジネス現場の訪問やオンライン相談を行い、ビジネス計画・運営について助言をしたり、現地協力企業と雇用機会を提供するための連携を行いました。また、メンバー 2 人が、本事業のサポートを受け、自治体から正式なビジネス（露店）運営許可を受けました。

事業の目的	路上で暮らす若者に自立のための技術や知識を学ぶ機会を提供する。		
活動地域	フィリピン・マニラ首都圏	受益者	路上で暮らす若者（年間約 60 人）
パートナー団体	チャイルドホープ・フィリピン財団	事業期間	2018 年 7 月～継続中

2023 年度は、生活協同組合コープみらい「子ども・子育て支援基金」、フィリピンのストリートチルドレン ZERO キャンペーンおよび個人／団体からの寄付金、「連合・愛のキャンパ」、(公財) 大阪コミュニティ財団「ストリートチルドレン等救済基金」、(独) 国際協力機構「世界の人々のための JICA 基金」、(一財) 日本国際協力システムからの助成金により事業を実施しました（受取総額 752 万 7,235 円）。温かいご支援をいただき、ありがとうございました。

事業名

フィリピンの“ストリートチルドレン ZERO”キャンペーン

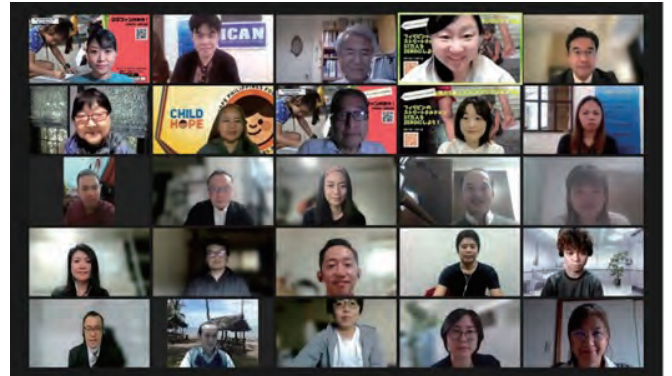
活動と成果

- 2023年4月の「ストリートチルドレンのための国際デー」に合わせ、啓発イベントと募金を行いました。

このキャンペーンでは、フィリピンのストリートチルドレンを2030年までに“ゼロ”にすることをめざし、日本とフィリピンの市民の意識啓発や協力の輪づくりなどを行っています。ACC21が共同で事業を実施する（一社）アジア宗教者平和会議東京（ACRP東京）と定期的に会合を持ちながら、次の活動に取り組みました。

啓発・募金キャンペーン

2023年の「ストリートチルドレンのための国際デー」（4月12日）に合わせ、4月から5月にかけてイベントを計3回開催し、募金キャンペーンを展開しました（ご寄付総額：225万6千円）。ご支援いただいた皆様に厚く御礼を申し上げます。



ストリートチルドレンのための国際デー記念イベント（2023年4月）

2023年度寄付金の配分と事業の実施

募金期間中に寄せられた寄付金（225万6千円）を次のように配分し、フィリピンの路上の子どもたちのために活用しました。

- ACC21実施事業：「Project Bamboo：路上で暮らす若者の自立支援プロジェクト」（82万8千円）【詳細はp.7参照】
- アイキャン実施事業：「フィリピンの路上の子どもの予防と早期

介入のための基盤構築事業」*（82万8千円）【詳細はp.9下段参照】

- キャンペーン推進に関わる人件費や啓発イベントのための費用、フィリピンの政府・自治体・NGOらとの連携促進のための現地渡航費など（60万円）

※路上の子どもの予防とは、路上の子どもが生まれにくい社会構造をつくるために、貧困家庭への支援に関する政策や制度を整備していく取り組みをさします。

キャンペーン関連イベント一覧

日時、会場	タイトル	講師・リソースパーソン名（敬称略）、役職	参加人数
2023/4/15 オンライン	ストリートチルドレンのための国際デー記念イベント「増えているフィリピンのストリートチルドレン、ZEROにできるのか？」	ヘレン・キント チャイルドホープ・フィリピン財団事務局次長 リカ・デプロイス、ジュード・ナティビダッド 元ストリートチルドレン 福田浩之 認定NPO法人アイキャン事務局長 辻本紀子 ACC21事業担当	約60人
2023/5/27 オンライン	【フィリピンの路上とオンラインでつながるLive配信】 ストリートチルドレンの生の声を聴く	フィリピン・マニラのストリートチルドレン3人 福田浩之・柴田康平 アイキャン 辻本紀子 ACC21	約40人
2023/5/31 オンライン	路上で暮らす子どものいない未来へ」クラファン終了直前トークライブ（Youtubeライブ配信）	福田浩之・柴田康平 アイキャン 出射見奈子 ACRP東京事務局 根本信博・加瀬ちひろ 立正佼成会 辻本紀子 ACC21	約40人

（役職はイベント当時）

事業の目的	フィリピンのストリートチルドレンを2030年までに“ゼロ”にすることをめざし、日本とフィリピンで意識啓発や関係構築を行う		
活動地域	フィリピン、日本	受益者	フィリピンの路上で暮らす子ども・若者たち
パートナー団体	（一社）アジア宗教者平和会議東京	事業期間	2021年10月～継続中

事業名

Take Action! 日本とフィリピンの子ども・若者の啓発と次世代育成プロジェクト ～ストリートチルドレン ZERO に向けて～

活動と成果

- フィリピンのストリートチルドレンの現状と課題について学ぶための連続講座を企画し、教材を開発しました。
- 本講座には、年度末までにのべ31人（うち学生17人）が参加しました。

日本国内の特に若い世代（高校・大学生等）の国際協力分野への問題意識を呼び起こし、その自発的なアクションを促進することで、「フィリピンの“ストリートチルドレン ZERO”キャンペーン」や「持続可能な開発目標（SDGs）」の将来の推進役を育てることをめざし、2023年10月から啓発事業を開始しました。

2024年2月から5月までの全4回の連続講座「Take Action!

連続講座：フィリピンのストリートチルドレンのために私たちができること」を企画し、講座に必要となる研修・グループワーク教材を作成したほか、2023年度末までに2講座を実施しました。参加者からは「自分が思っているよりストリートチルドレンの生活は苦しいものだとわかった」「問題が発生するメカニズムの一端を感じることができた」といった感想が寄せられました。

Take Action! 連続講座：フィリピンのストリートチルドレンのために私たちができること

日時、会場	タイトル	講師・リソースパーソン名（敬称略）、役職	参加人数
2024/2/7 オンライン	第1回：フィリピンってどんな国？	佐竹眞明 名古屋学院大学国際文化学科教授 辻本紀子 ACC21 事業担当	17人
2024/3/5 オンライン	第2回：ストリートファミリーの生活を体験しよう ^(※)	岡田薫 日刊まにら新聞	14人

※研修参加者がフィリピンの路上家族の一員と仮定して、1か月分の収入・支出を計算し、現地貧困家庭の生活の難しさを体験するためのグループワークを実施

（役職はイベント当時）

フィリピンの路上の子どもの予防と早期介入のための基盤構築事業

● 認定NPO法人アイキャン

「フィリピンの“ストリートチルドレン ZERO”キャンペーン」の2023年度寄付配分事業の一つとして、認定NPO法人アイキャンが実施する「フィリピンの路上の子どもの予防と早期介入のための基盤構築事業」を支援しました。

フィリピンの路上の子どもたちの多くは、周囲の人々からの差別や、大人から期待され褒められる経験や目標になるロールモデルが乏しいことから、自己肯定感が低く、現状を変えようという意識が持ちにくい環境に置かれています。

そこで本事業では、アイキャンの長年のパートナー・協同

組合カリエ（元路上の若者で構成）をモデルとして、路上の子どもの復学や自立を促す“若者リーダー”を各地で育成し、路上の子どもの予防と早期介入のための基盤をつくることをめざします。2023年7月から2024年3月までの間に、次の4つの活動に取り組みました。

- ① スポーツを通じたライフスキル研修（4回、のべ119人が参加）
- ② 若者リーダーの育成（テーマ：自己認識、問題解決、コミュニケーション、リーダーシップ。のべ167人が参加）
- ③ 若者リーダーによるピア教育の実施（4地域にて実施、のべ34人が参加）
- ④ 若者リーダー会議（4地域にて実施、のべ33人が参加）



ライフスキル研修にて、プロサッカークラブ・湘南ベルマーレの講師とルールを守ることについて話し合うようす（フィリピン・マニラ）

本事業の活動に参加した若者のうち7人が学校に復学し、そのうちの1人は「研修を受けて、自分も変われると思った。僕もカリエのお兄さんになりたいから、学校に行くことを決めた」と話しました。このように、ライフスキル研修とリーダー育成研修を通して、参加した若者は路上から抜け出して自分を変えたいと思えるようになりました。

モニタリング報告

2023年度から現在（2024年10月）まで計2回（2023年8月と2024年8月）、フィリピン・マニラ首都圏を訪れ、「Project Bamboo：路上で暮らす若者の自立支援プロジェクト」の事業現場で若者たちの生計活動の現場訪問、研修活動や YEG 会合への参加、現地団体との会合、研修生・修了生へのインタビューなどを行いました。フィリピンでは雨が多く降る6月から11月を「雨季」と呼んでいます。とくに2023年の訪問時には突然の豪雨に見舞われ、現地パートナー団体「チャイルドホープ」の職員から「この時期は雨が多くて、フィリピンに来る最悪のタイミングだよ」と言われてしまいました。しかし、雨風をしのいで暮らす路上の家族の姿や、「雨で客足が遠のいてビジネスの売上が下がった」と話す路上の若者たちに接し、改めて路上で暮らすことの厳しさを実感する機会となりました。この2回の訪問で出会った若者たちについて、ご報告します。（報告：辻本紀子）

路上で串焼きを売る“若手起業家”のジェネシスさん （2023年8月訪問）

2023年春に本事業の半年間の研修を修了したジェネシスさん（当時21歳）を訪ねました。

ジェネシスさんはマニラで生まれ育ち、10歳くらいのときに母親ときょうだいと共に路上で暮らし始めました。今の家には5年前から住んでおり、現在は夫と娘（3歳）との3人暮らしです。貧しい暮らしながらも、支援を受けて学業を続け、2023年に高校課程を修了しました。「大学に進学して、政治学を学びたい」と話してくれました。

串焼きの販売は、子育てや学業と両立しながら収入を得ようと考えて始めました。串1本あたり20～30フィリピン・ペソ（約52～78円）で、1日に30～50本を販売。月の収入は6,000～9,000ペソ（約15,600～23,400円）だといいます。

本事業では、就職に役立つ職業技術研修のほか、小規模なビジネスを始めるための研修も提供しています。ジェネシスさんは、「研修を通して商品の市場開拓（マーケティング）について学んだことが、ビジネスを運営する上で非常に役に立っています。今後は販売する軽食の種類を増やしたいです」と話しました。

また、起業に関心のある修了生からなる「若者起業グループ」にも参加し、さらにビジネスを成長させていこうと意欲的に学んでいます。

働きながら大学進学をめざすロレンソさん

（2023年8月訪問）

ロレンソさん（当時19歳）は、近所に暮らすジェネシスさんと同様、2023年春に研修を修了しました。

ロレンソさんは、貧しい家庭の出身ながら、「子どもたちのなかで、少なくとも一人は大学を卒業する」という母親との約束を果たすため、勉強と仕事を両立させようと奮闘してきました。「親に苦勞をかけさせたくない」と考え、高校を休学して、生活費を稼ぐため仕事に集中していた時期もあります。しかし訪



肉の串焼きを手早くつくるジェネシスさん



ジェネシスさんが販売している串焼き

問時には、大学卒業の夢をかなえるために、「勤労学生」として復学し、ファーストフード店での仕事と高校生活を両立させていました。

路上出身の若者たちにとって、学業を続けることは簡単なことではありません。金銭的な理由のほかにも、学校で差別やいじめに遭い、勉強を続けられなくなる子もいます。しかし、将来より良い仕事に就くために、ロレンソさんのように寝る時間も惜しんで働き、学ぶ若者の姿を見ると、強く胸を打た

れます。

そんなロレンソさんに、研修を通して学んだことについて伺うと、「知識を得ることや、自分を律することの大切さを学びました。また、金銭管理教育を通じて、お金の使い方、とくに予算立てすることの大切さやその方法を学びました。今までは、予算を立てるほどのお金がなかったので、考えたこともなかったのです」と話してくれました。

自分のような体験を姪にはさせたくない

—キンバリーさん (2024年8月訪問)

スラムの一面に暮らすキンバリーさん(当時25歳)の自宅を訪れました。「自宅」といっても、3階まで積み上げられた建物の、ほぼ直角の階段(はしご?)を3階まで登ったところにある数畳のスペースに、パートナー、姪2人と同居していました。

キンバリーさんとパートナーのマリーグレースさんは、ともに2024年春に半年間の研修を修了し、「国家資格II類」というフィリピンの労働雇用省技術教育技能開発庁(TESDA)が公的に認めた能力基準(4つあるうちの下から2番目のレベル)に合格しました。

マニラ出身ですが、家庭の貧困のため、8歳の頃から路上でサンパギータ(フィリピンの国花)のレイ(花輪)を売って家計を助けるようになりました。しかし、祖母からの虐待が原因で、11歳のときに家を飛び出し路上で暮らし始め、小学校6年生で退学しました。

路上で暮らしている間には、違法薬物を使用・販売するようになり、逮捕・収監された経験もあります。出所してから2年が経ちますが、姪と暮らし始めて「姪には自分のようになってほしくない」と薬物をやめる決断をし、それ以来手を出していないそうです。



突然の雨の中、辻本(左から2番目)がインタビューをしていたら、ロレンソさん(左端)が傘をさしてくれました(2023年8月)

「研修を通じて学んだことは、自己管理と自分にとってストレスや不安の少ない空間を作ることの大切さです」と語ったキンバリーさん。いずれホテルでのOJT(実地研修)に参加し、より実践的なスキルを身につけ、そのあとはビジネスを立ち上げたいと話してくれました。最後に、私が「その夢をかなえるために何が必要だと思いますか?」と伺ったところ「勤勉に働くこと、そして必ず成し遂げるという強い意志を持つことが必要だと思います」と力強く答えてくれました。

ここに紹介したように、本事業で支援する若者たちは、それぞれに困難な子ども時代を経験しながらも、いまは前向きに努力を重ねています。現地パートナー団体の職員によると、研修開始時には、人前で話すこともできない子が多いそうです。研修を通じて「努力すれば将来は変えられる」という自信を持てるようになった若者たちの姿こそ、本事業の一番の成果だと思います。引き続き、本事業を通じて、ひとりでも多くの若者たちが未来を切り開く力を身につけられるよう、取り組んでまいります。



キンバリーさんの「自宅」でのインタビューの様子(2024年8月)



キンバリーさん(右)とマリーグレースさん(左)

日韓みらい若者支援



スタディツアーで植民地歴史博物館を訪問（後列左から2人目が共催団体（特活）AsiaCommons 亜洲市民之道 麻生理事長、右端が ACC21 職員シャープ）

本事業では、繰り返し起きる日本と韓国の対立を乗り越えるため、朝鮮半島と日本にルーツをもつ若者たちが日韓関係の歴史を学び、共通の歴史観をもち、未来に向けた創造的な新しい日韓関係を築いていけるように、様々な活動に取り組んでいます。2023年度は学習会を4回、語り場活動を4テーマ7回、フォーラムを1回開催するとともに、初めてとなる韓国スタディツアーを実施しました。

初の韓国スタディツアーで日韓の若者26人が交流

日本と韓国をあわせて26人がスタディツアーに参加し、「植民地時代、朝鮮戦争、これからの平和」というツアー・テーマに関連する訪問先で学びを深め、韓国の市民と交流・対話しました。

新たな関係づくりとネットワーキング

これまでの約4年間の活動を通じて実施した学習会や“語り場”活動にご参加・ご協力いただいた方々とのネットワークが広がっています。

例えば、本年度の学習会の講師が所属する（特活）高麗博物館のご紹介により、韓国スタディツアーでは植民地歴史博物館を訪問しました。また、“語り場”活動『『韓国学ハンマダン』執筆者から学ぶ韓国の歴史と現代社会』の講師（若手研究者）には、ツアーのガイドや通訳としてご協力をいただきました。

事業名

日韓みらい若者支援事業

活動と成果

- 年間 208 人（前年度より 55 人増加）が活動に参加し、その約半数が若者でした。
- スタディツアーを通じて、日韓の若者・関係団体間の訪問、対話交流が実現しました。



高麗博物館で関東大震災時の朝鮮人虐殺についての展示解説を受けた



“語り場”活動④「韓国の現代社会」で学ぶ学生たち

年間の活動参加者は 200 人以上

2023 年は、関東大震災から 100 年、朝鮮戦争の休戦協定の締結から 70 年という節目の年でした。そこで、学習会の大テーマを「歴史と実践者から学び、考える北東アジアの平和」とし、次の 4 つのテーマで学習会を開催し、計 42 人が参加しました。

- 1) 朝鮮人被爆者の歴史
- 2) 関東大震災時における朝鮮人虐殺の歴史
- 3) 朝鮮戦争の歴史
- 4) 東アジアの平和や平和構築プログラム

少人数で 1 つのテーマについて学びを深める“語り場”活動は、次の 4 つのテーマで開催し、計 67 人が参加しました。

- 1) 日韓の歴史教科書
- 2) 韓国の歴史と現代社会
- 3) 韓国の市民活動とジェンダー
- 4) 韓国の現代社会

韓国スタディツアーでは、日本の植民地時代や朝鮮戦争の歴史を学び、若者や市民と交流しました。

1 年間の活動の成果を共有するフォーラムは、「歴史と実践者から学び、考える東アジアの平和」をテーマに、2024 年 4 月に開催しました。

事業の目的	朝鮮半島と日本にルーツをもつ若者たちが日韓の歴史を直視し、2 国間の共通の歴史観を育み、両国関係の未来を志向する若い人材の育成を行うとともに、若者間のネットワークづくりを支援する。		
活動地域	日本、韓国	受益者	若者、学生、一般市民 計 208 人
パートナー団体	(特活) AsiaCommons 亜洲市民之道	事業期間	2019 年 11 月～現在

本事業の実施にあたり、2023 年度は、(一財) MRA ハウス、(特活) アーユス仏教国際協力ネットワーク『街の灯』支援事業からの助成金と、市民の皆さまからのご寄付をいただきました（受取総額 470 万 8,486 円）。心より御礼を申し上げます。

参加者の声 (所属は開催当時のもの)



「いかなる場合においても差別はあるべきではない」
 若月駿亮さん（第2回学習会参加者、第39回日韓学生会議 代表）

関東大震災の状況について深く学んだことがありませんでしたが、今回の学習会で虐殺の実態やどのような背景や対応があったのかということをお話や展示物等を通して学ぶことができました。

印象的だった部分は、関東大震災の絵巻。震災の様子が描かれているだけではなく日本人と朝鮮人と思われる方々の描写に違いがあり、虐殺以前に差別があったということが表れていました。当時の日本政府、自警団によって行われたということに憤りを覚えました。



「こそこそと話すのではなく、もっと話せる場所ができるといいと思います」
 大学生
 (“語り場”活動③参加者)

講座で紹介されたメディア記事に、90年生まれの女性には、地方で守ってくれる場所や連帯する場所がないという話がありました。私は大学生ですが、ここで語られているような話ができる場所がありません。できたとしても周りの友人からその話に対して「自分が責められているように感じる」、「それを考える余裕がない」と言われます。自分が考えていることがつまらないことや、周りからは邪魔なものとして、外に出されてしまうことが多いです。

2023年度の活動一覧

	日時、会場	タイトル	講師・リソースパーソン名(敬称略)、役職	対象/協力団体	参加人数
学習会	2023/5/27 オンライン	第1回学習会「長崎にある平和資料館から考える『いま、私たちは……』」	崎山昇 (特活) 長崎人権平和資料館 理事長	高校生、 大学生、 大学院生、 社会人	7人
	2023/10/13 東京都	第2回学習会「関東大震災『朝鮮人虐殺』: 100年前に何が起きたか」	村上啓子 (特活) 高麗博物館 理事長/ 高麗博物館関東大震災研究会	高校生、 大学生、 大学院生、 社会人	14人
	2023/11/11 オンライン	第3回学習会「休戦協定の締結から70年一朝鮮戦争と日本一」	和田春樹 東京大学名誉教授	高校生、 大学生、 社会人	11人
	2024/2/6 オンライン	第4回学習会「敵意と軍事主義から平和と和解の文化に転換するためには～NARPIの平和教育とピースビルダー育成の経験から～」	奥本京子 大阪女学院大学 教授、NARPI 前運営委員長	中学生、 大学生、 社会人	10人
「語り場」活動	2023/6/10 オンライン	“語り場”活動①「日韓の教科書の比較から見た慰安婦問題」(日韓学生フォーラム39期が主催する学習会への講師派遣)	上山由里香 韓国近現代史研究者	大学生 (日韓学生フォーラムのメンバー)	17人
	2023/11/25、 2023/12/8、 2023/12/16	“語り場”活動②「『韓国学ハンマダン』執筆者から学ぶ韓国の歴史と現代社会」	緒方義広 福岡大学人文学部東アジア地域言語学科准教授、 青木義幸 獨協大学非常勤講師 朝比奈祐揮 韓国外国語大学校国際地域大学院助教授 佐々紘子 サイバー韓国外国語大学校助教授 曹美樹 日韓市民社会交流コーディネーター 徐台教 ジャーナリスト	中学生、 高校生、 大学院生、 社会人	28人
	2023/12/16、 2024/1/13 オンライン	“語り場”活動③「記事<イルダ>を通して韓国の市民活動とジェンダーを考える」	麻生水緒 (特活) AsiaCommons 亜州市民之道代表、 日韓みらい若者支援事業運営委員	大学生、 社会人	6人
	2024/2/11 オンライン	“語り場”活動④「韓国の現代社会」(日韓学生フォーラム40期主催のフォーラムへの講師派遣)	朝比奈祐揮 友岡有希 ワーカーズコープ・センター事業団	大学生 (日韓学生フォーラムのメンバー)	16人
スタディツアー	2024/2/21～ 2/25 韓国	日韓みらいスタディツアー「韓国市民との対話と実地体験で学ぶ—日本の植民地時代、朝鮮戦争、これからの平和」	(p.16～17参照)	中学生、 大学生、 大学院生、 社会人	26人
フォーラム	2024/4/20 オンライン	「歴史と実践者から学び、考える東アジアの平和」	徐台教 ジャーナリスト	高校生、 大学生、 NGO団体職員、 教員	73人

(役職はイベント当時)



学習会・“語り場”・フォーラム紹介

2023年度に実施した学習会、“語り場”活動、フォーラムの一部をご紹介します。

第2回学習会

100年前に起きた朝鮮人大虐殺を知る

高麗博物館の企画展「関東大震災100年 隠蔽された朝鮮人虐殺」の展示解説を受けました。作者の淇谷（雅号）が人から話を聞いたり、他の絵巻を参考にして描いたという「関東大震災絵巻」には虐殺や大津波の様子が描かれ、序文には「こういうことが再び起こらないように、後の人も良く考えてほしい」という趣旨文が書かれていました。

講師で同博物館の村上理事長は「虐殺の記憶は、当事者にとってトラウマであることを、私たちは想像しなければいけない」と話し、参加者は「100年前は噂を信じるしかなかった。自分が一人でも声をあげることが大切」「当時の映像をカラーで見ると、今と変わらない。他人事とは思えない」などと述べました。

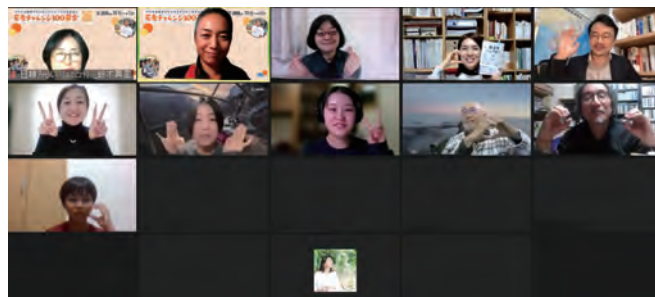


初めて公開された2つの絵巻「関東大震災絵巻」の展示解説を受けた
(23年10月)

“語り場”活動②

韓国の現代社会と歴史を学ぶ

韓国と関わる若手研究者講師6人から「韓国にとっての在日コリアン」「民主化運動」「教育、労働、ジェンダー」「往還する言葉」「韓国の市民運動や平和活動」「朝鮮半島の南北分断」と幅広いテーマで学びました。参加者からは、「韓国という国と、講師の専門分野の学問が結びついた話を聞いて大変学びの多い時間だった」「インターネットで調べられない情報や市民社会の生活に根付いた活動を良く知ることができた」という感想が寄せられました。



『韓国学ハンマダン』執筆者が講師をつとめた“語り場”活動
(23年11・12月)

フォーラム

「歴史と実践者から学び、考える東アジアの平和」

1年間の活動の成果を共有するフォーラムでは、基調講演「求められる学びと実践の両立～朝鮮半島を例に～」でジャーナリストの徐台教氏が朝鮮半島の分断と日本の関わりを説明し、市民が人権、平和、民主主義の価値を大事にして行動するには「知る（知識）のではなく理解すること。理解するためには実践が必要」と話しました。スタディツアー、学習会、“語り場”活動での学びの発表も行われ、ツアーに参加した韓国の大学生からは「『親日派』の意味や歴史教育の違いなど、日本からの参加者と情報交換できたのが興味深かった」との話が共有されました。フォーラム参加者からは「歴史問題が現在も遺恨を残し、多方面に渡っていると再確認させられる機会だった」との感想が寄せられました。



フォーラムには高校生、大学生、NGO 団体職員、教員など73人が参加
(24年4月)

「韓国市民との対話と実地体験で学ぶ —日本の植民地時代、朝鮮戦争、これからの平和—

2024年2月下旬、初めての韓国訪問スタディツアーを実施し、日本からは大学生から40代前半の社会人まで、韓国からは中学生から大学生まで計26人が参加しました。
(報告：シャープ茜)

植民地時代の歴史と強制動員の被害者支援について学ぶ

1日目のプログラムは植民地歴史博物館で開始されました。学芸員の野木香里氏から展示物について解説していただき、植民地時代の歴史を学びました。その後、強制動員の被害者支援に長年関わる金英丸氏による講義を行い、日韓の参加者間で意見交換を行いました。「(今日みた展示物は)学校の歴史の授業で学んだこととほとんど同じだった。(今日参加している)日本の人の意見を聞き、韓国人の見方と違うと思った」(韓国の大学生)、「日本にいただけではわからないことがある。ここに来ることで韓国側の目線を知ることができると思った」などの感想がありました。約3時間のプログラムで頭が一杯になった後は、さっそく参加者同士で夕食に出かける人たちもいました。

南北の分断の現場へ

2日目はジャーナリスト徐台教氏による解説を受けながら、朝鮮半島の南北の分断の状況が見える烏頭山統一展望台と非武装地帯(DMZ)に行きました(DMZツアーは坡州市の運営)。一帯には鉄線が張られ、参加者たちはその場が単なる観光地ではないことを実感しました。そして望遠鏡で朝鮮半島の北側を覗くと、レンズの向こう側に人がいるのが見えたことに驚き、肉眼で分断の現場を見ることで、朝鮮半島がどのような状況に置かれているかを学びました。

その日の夜は、デジタル性犯罪の被害者を支援しているウォン・ウンジ氏のお話を聞きました。性犯罪の実態を知った参加者から次々に質問があり、活発な意見交換が行われました。



ツアー初日は植民地歴史博物館で日韓の学生・若者が共に学んだ(1日目)

ワークショップを通じて「修復的正義」を学ぶ

3日目は、南楊州市にある「東北アジア地域平和構築インスティテュート(NARPI)」を訪問し、代表のイ・ジェヨン氏からNARPIが実践している「修復的正義」についての講義を受けました。「修正的正義」とは、犯罪や事件、暴力や人権侵害などの不正義に対応する仕方の一つで、できるだけ広範な関係者の参加と対話を通して、生じた損害や傷ついた関係を修復し、人々の回復と状況の是正をめざす考え方で、「前日に聞いた性犯罪被害者の話と重なる」と話す参加者もいました。

現地の中学生との意見交換

ツアー終盤の4日目の午前は、議政府市に移動し、中学生(楊州市の中学校)と、日本と韓国の食事や文化、韓国の兵役などについて、グループに分かれて意見交換をしました。

植民地時代や戦争の歴史、領土問題について話したグループでは、日韓の歴史教育の違いを知った中学生が厳しい表情で問いかける場面もあり、日本からの参加者には「中学生の方が歴史を知っている」と驚く人もいました。中学生たちは、「歴史をしっかりと学ぼうとしている日本人がいて嬉しい」と感想を話してくれました。

その後、プデ(部隊)チゲ店に行き、ツアー参加者と中学生で昼食を囲みました。日本語、韓国語、英語という複数の言語を交えながら、言語の壁と世代を超えて交流を深めました。



望遠鏡で朝鮮半島の北側を見る参加者たち(2日目)



中学生とのグループトークでは食べ物から歴史問題まで話し合った（4日目）



中学生たちと議政府市の名物「部隊（プデ）チゲ」を囲んで（4日目）

学びの総括と、今後への期待

午後は植民地歴史博物館の会議室で、社会起業家のイ・イエスル氏から、韓国の社会的起業や彼女が取り組んでいる環境問題と取り組みについて話を聞きました。その後のツアーの振り返りと総括では、「オンラインで定期的に学ぶ場を作っていきたい」「日中韓で作った歴史教材を使って学びたい」などの意見が出ました。

このツアーでは、日韓の若者たちが違いや共通点を知り、相手を理解することから始まりました。そして、韓国と日本からの参加者に分かれて向かい合った状態ではなく、最後には輪になり、このツアーで学んだこと、これから何ができるかを真剣に考え、話し合うことができました。

翌日の自由行動では、韓国の学生たちの案内で景福宮に行き、韓国の衣装に身を包み日韓の若者たちが歩く姿を見て、現地に行くこと、対面で交流することで“温かいつながり”が新たに生まれた瞬間を目にした思いでした。



このツアーに参加して得た気づきについて話し合う参加者たち（4日目）

【スタディツアーの旅程】（2024年2月21日～24日）

《1日目》

- ・ 植民地歴史博物館見学
（講師：野木香里氏（学芸員）、
金英丸氏（民族問題研究所対外協力室長））

《2日目》

- ・ ジャーナリスト徐台教さんのガイドで回る DMZ ツアー
（場所：非武装地帯（DMZ）、烏頭山統一展望台）
- ・ ウォン・ウンジさん（追跡団火花）のお話

《3日目》

- ・ 東北アジア地域平和構築インスティテュート（NARPI）でのワークショップ
（講師：イ・ジェヨン氏（NARPI 代表））

《4日目》

- ・ 市民との交流（議政府市）
（通訳&コーディネーター：パク・ソンミ氏（中学校教師））
- ・ イ・イエスルさん（社会起業家）の話、ツアーのまとめ

【ツアー呼びかけ】 ACC21、

（特活）AsiaCommons 亜洲市民之道

【旅行企画実施】 エアワールド（株）

【問い合わせ・申込み先】（株）オルタナティブツアー

公益信託の事務局活動



ACT「ネグロス貧困学生の奨学支援」（フィリピン）で奨学生たちと

活動と成果

- 3つの公益信託を合わせて34件・3,634万円の助成活動を事務局として支えました。
- これらの助成活動を通じて、アジアの人々約24,500人が受益しました。

ACC21は、「アジア・コミュニティ・トラスト（ACT）」「今井記念海外協力基金」「川上甚蔵記念国際文化教育振興基金」という3つの公益信託の事務局を受託しています。公益信託とは、社会貢献を志す個人や法人からのご寄付を信託銀行等が管理・運用し、寄付者の立場に立って公益活動を行う仕組みです。

ACC21はアジアの途上国での長年の経験や知見を活かして、

アジア各国で実施される助成事業の報告書の取り付け、助成団体との連絡・調整、新規事業の募集・調査、受託銀行との連絡・調整などを行い、質の高い助成活動を支えています。

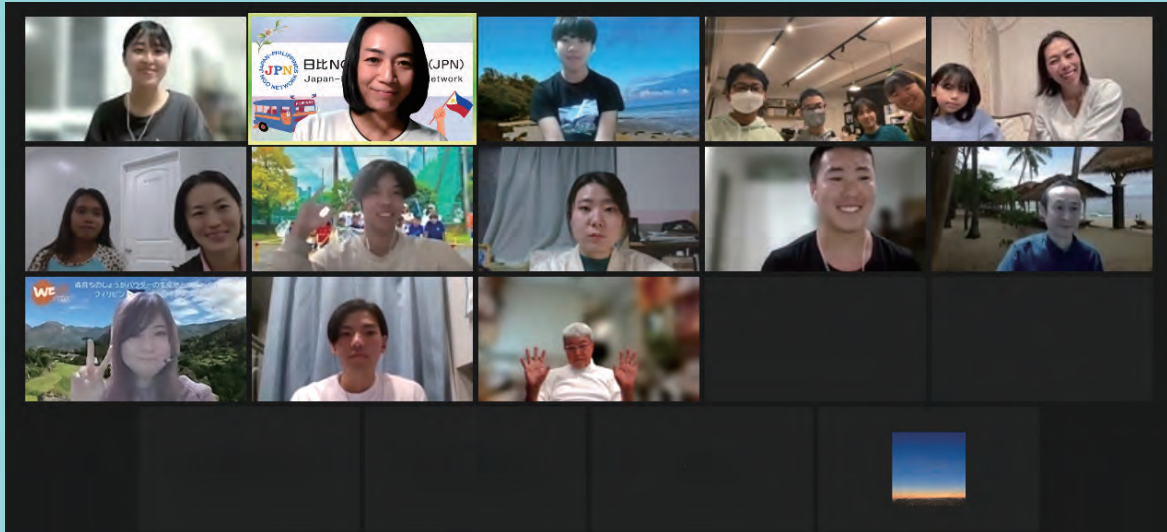
2023年度は、3つの公益信託を合わせて、フィリピン、インドネシア、カンボジア、インド、スリランカ、ネパール、バングラデシュ、日本の8カ国で34事業が実施され、約24,500人に支援を届けました。

ACC21が事務局をつとめる公益信託	2023年度助成件数／総額（決定額）／実施国
アジア・コミュニティ・トラスト	27件／2,994万円／6か国（フィリピン、インドネシア、カンボジア、インド、スリランカ、日本）
今井記念海外協力基金	6件／550万円／4か国（フィリピン、カンボジア、ネパール、バングラデシュ）
川上甚蔵記念国際文化教育振興基金	1件、90万円、1か国（フィリピン）

「アジア・コミュニティ・トラスト」と「今井記念海外協力基金」についての詳細は、ぜひ専用ウェブサイトをご覧ください。

- ・アジア・コミュニティ・トラスト <https://act-trust.org>
- ・今井記念海外協力基金 <https://imai-kikin.com/>

にっぴ 日比NGO協働推進



「なぜ私たちはゴミを拾うのか」というテーマでの学習会

活動と成果

- 企業連携、ゴミ問題、ビジネスパーソンによる教育支援についての学習会に 44 人が参加。
- 新しいフィリピン関係団体や若い活動家などを講師に招き、学習会参加者層が広がりました。

様々な立場の人とフィリピンについて触れる

ACC21 が事務局をつとめる日比 NGO ネットワーク(JPN)は、設立 18 周年を迎えました。「フィリピンの人々との協力活動を行う日本の市民組織 (NGO) 間の相互理解および協力関係を促進するとともに、日本とフィリピンの NGO 間の協働を推進することにより、両国市民社会の創造的な関係構築に寄与する」ことをめざし、正会員 10 団体、準会員 3 団体* (2024 年 3 月末時点) の参加を得て活動しています。

2023 年度は学習会を中心に活動しました。第 1 回は NGO と企業の連携について学び、第 2 回は「なぜ私たちはゴミを拾

うのか?」をテーマに日比のゴミ拾いの違いについて学びました。第 3 回は、別に仕事を持ちながら、子どもの教育支援を長年続ける団体の代表者による事業・組織運営の実態と課題について話を聞きました。

前年度の学習会に参加した学生が第 2 回学習会のゲストとして登壇したほか、学生の参加が増えました。

広報面では、JPN ホームページ内に英語ページを公開したほか、SNS やメールマガジンを JPN の活動や会員団体の紹介の情報発信に努めました。

※ 1 大学ゼミナールを含む

学習会一覧

日時/会場	タイトル	講師・リソースパーソン名 (敬称略)、役職	参加人数
2023/9/21 オンライン	民間企業との WIN-WIN の関係の築き方～企業への提案力・企画力を伸ばすには? アクションの事例から～	横田宗 (特活) ACTION 代表	7 人
2024/2/14 オンライン	私がゴミを拾う理由 —フィリピンと日本、ゴミを取り巻く環境の違い—	おっちゃん (大学生)、れお (小学 6 年生)、ドナメイ (2 児の母)	25 人
2024/3/16 オンライン	国際協力の新しいカタチ—ビジネスパーソンが推進するフィリピンの子どもたちへの教育支援—	外館孝則 (特活) エンチャイルド理事長	12 人

(役職はイベント当時)

知識・情報の普及



Panasonic NGO/NPO サポートファンド for SDGs 贈呈式に出席した鈴木副代表理事（2024年1月）

活動と成果

- イベント開催や講師派遣、訪問受入を通じ、のべ約 470 人に ACC21 の活動を知っていただきました。
- 中長期計画、新しいビジョン、ミッションの策定など、組織基盤強化に取り組みました。

2023 年度は、「フィリピンのストリートチルドレン支援事業」や「日韓みらい若者支援事業」などの事業活動や、新しいビジョン・ミッションを象徴した募金キャンペーン「若者チャレンジ 100 募金」の取り組みを通じて、フォーラムや学習会・講座などのオンライン・イベントを積極的に開催しました。さらに、外部セミナーへの講師派遣（2 回）を行ったほか、個人・団体の訪問（3 組）を受け入れ、アジアの現状や ACC21 の活動について説明しま

した。その結果、各事業に関連する講座や学習会、ツアーなどを含むイベントにのべ約 470 人以上が参加しました。

また、ウェブサイトや SNS（Facebook、Instagram、X）、メールマガジンでの定期的な情報発信や年次報告書の発行を通じて、支援者や一般の方々への情報提供と活動への参加呼びかけを行いました。

イベント・講師派遣

	日時、会場	タイトル	講師／登壇者名、役職	参加人数
主催	2024/1/30 [※] オンライン	キャンペーン終了まであと 1 日! 「なぜ今、アジアのつながりが重要なのか」【若者チャレンジ 100 募金 Youtube ライブ】	鈴木真里 ACC21 副代表理事・事務局長 辻本紀子 同フィリピン事業担当 シャープ茜 同 日韓事業担当 岸本尚子 ファンドレイザー	24 人 (配信中の視聴回数)
講師派遣	2023/11/7 東京都	生活協同組合コープみらい活動報告会「フィリピンの路上で暮らす若者の自立支援プロジェクト」	鈴木真里、辻本紀子	約 50 人
	2024/1/26 [※] オンライン	ニューホライズンコレクティブ合同会社「NH ソシャる! 新春特別セミナー『若者チャレンジと世界平和：NPO/NGO の活動を通じて考える』」	鈴木真里、辻本紀子、シャープ茜	約 20 人

※ 「若者チャレンジ 100 募金」への支援呼びかけをかねたイベント・講師派遣

事業名

SDGs と知識・情報普及の推進に向けた広報、ファンドレイジング戦略の策定

2022 年度に引き続き、「Panasonic NPO/NGO サポートファンド for SDGs」の海外助成プログラム（2 年間：2023 年 1 月～2024 年 12 月）からの助成を受けて、事業承継を見据えた組織基盤づくりに取り組みました。

①「中長期計画」と新しいビジョン・ミッションの策定

外部専門家の協力を得ながら、事務局と「中長期計画策定委員会」にて協議を重ね、2023 年 6 月の理事会で「中長期計画（2023～30 年度）」と「新しいビジョン・ミッション」が承認されました（詳しくは本誌の表紙裏をご覧ください）。

②「若者チャレンジ 100 募金」の実行

新しいビジョン・ミッションをより多くの方に知っていただき、ACC21 が 2030 年までに取り組む“若者とのチャレンジ”への

応援を募るメッセージを含め、募金キャンペーン「若者チャレンジ 100 募金」を行い、2023 年 12 月 1 日から 24 年 1 月 31 日までにのべ 110 人・団体の方から 128 万 207 円のご寄付をいただきました。

③特設ウェブページ・パンフレットの作成

新しいビジョン・ミッションや中期ビジョンを表現する新しいキャッチコピー「アジアのつながりを、未来の力に。」を採用し、特設ウェブページとパンフレットを作成・普及しました。また、新しいビジョン・ミッションや中期ビジョンについて ACC21 役員が説明する動画を公開しました。

◎特設ウェブページ：<https://acc21.org/purpose/>

◎動画（YouTube 内）：<https://www.youtube.com/watch?v=1pkDVm01p6A&t=1s>



「若者チャレンジ 100 募金」







新しいビジョン・ミッションや中期ビジョンを表現する「特設ウェブページ」

政策・制度変革のための提言

下記のネットワーク・団体のメンバーとして、それぞれの政策提言活動に参加しました。

- ・（特活）国際協力 NGO センター（JANIC） 正会員
- ・日比 NGO ネットワーク（JPN） 正会員
- ・グローバル連帯税フォーラム 正会員
- ・NGO-労働組合国際協働フォーラム 会員
- ・認定 NPO 法人振興会 会員

たくさんの方に支えていただきました

正会員	賛助会員	寄付者	すっきり寄付 <small>(古本募金含む)</small>
			
▼	▼	▼	▼
11名	20名(34口)、 2団体(2口)	187名・団体 (11,202,252円) ^(注)	のべ75名・団体 (316,124円) ^(注)

(注) 詳しくは p.23 右下の注記をご覧ください。

助成金・基金

(特活) アーユス仏教国際協力ネットワーク 『街の灯』支援事業	(一財) MRA ハウス
(公財) 大阪コミュニティ財団 「ストリートチルドレン等救済基金」	(独) 国際協力機構 (世界の人びとのための JICA 基金)
生活協同組合コープみらい 「子ども・子育て支援基金」	(一財) 日本国際協力システム
日本労働組合総連合会 総合国際局 「連合・愛のキャンパ」	Panasonic NPO/NGO サポートファンド for SDGs 海外助成プログラム

●活動現場訪問

2023年11月、日本生活協同組合連合会と生活協同組合コープみらいの方々がフィリピンの活動現場を訪問されました。

生活協同組合コープみらいは、「子ども・子育て支援基金」を通じて、2022年度から ACC21 の「Project Bamboo：路上で暮らす若者の自立支援プロジェクト」をご支援いただいています(2024年10月末までのご寄付総額：1,095万円)。



路上で若者たちから話を聴きました

訪問当日は、都市貧困層の女性にマイクロファイナンスを提供

し、本プロジェクトの協力団体でもある「カサガナカ協同組合」の本部を訪問し、同組合の幹部職員



チャイルドホープの事務所にて

と会合をもちました。その後、ACC21のパートナー団体「チャイルドホープ・フィリピン財団」の事務所と、支援している若者たちの生活と仕事の現場を訪れました。5人の若者たちから現在の生活や今後の目標などの話を聴いた後、修了生で構成される「若者起業グループ」の会合に参加しました。フィリピンまで足を運んでくださり、ありがとうございました。

決算報告 2023年度(2023年4月1日～2024年3月31日)

①活動計算書

(単位：円)

科目	金額	小計・合計
I. 一般正味財産増減の部		
【A】経常収益		
1. 受取会費		390,000
正会員受取会費	120,000	
賛助会員受取会費	270,000	
2. 受取寄付金 ^(注)		11,488,368
受取寄付金	11,385,368	
受取寄付金振替額 (日韓みらい若者支援事業)	103,000	
3. 受取助成金等		6,766,903
受取助成金	6,766,903	
4. 事業収益		10,650,275
受託事業収益	10,612,635	
自主事業収益	37,640	
5. 負担金収益		1,000,000
共同事業負担金収益	1,000,000	
6. その他の収益		45,684
経常収益計		30,341,230
【B】経常費用		
1. 事業費		27,106,591
人件費	12,641,964	
その他経費	14,464,627	
2. 管理費		2,252,961
人件費	977,999	
その他経費	1,274,962	
経常費用計		29,359,552
当期経常増減額【A】－【B】…①		981,678
【C】経常外収益		0
【D】経常外費用		0
当期経常外増減額【C】－【D】…②		0
税引前当期一般正味財産増減額 ①＋②…③		981,678
法人税、住民税、事業税…④		70,000
前期繰越正味財産額…⑤		4,089,496
次期繰越一般正味財産額 ③－④＋⑤		5,001,174
II. 指定正味財産増減の部		
受取寄付金…⑥		103,500
「アジア若者みらい基金」 (日韓みらい若者支援事業指定寄付)	103,000	
一般正味財産への振替額…⑦		△ 103,000
当期指定正味財産増減額⑥＋⑦		0
前期繰越指定正味財産額		0
次期繰越指定正味財産額		0
次期繰越正味財産額		5,001,174

②貸借対照表

(単位：円)

科目	金額	小計・合計
資産の部		
1. 流動資産		10,556,227
現金預金	10,261,579	
未収金	45,272	
棚卸資産	249,376	
2. 固定資産		0
有形固定資産		0
無形固定資産		0
投資その他の資産		0
資産合計		10,556,227
負債の部		
1. 流動負債		5,555,053
未払金	1,136,010	
前受金	3,366,909	
預り金	470,676	
仮受金	7,158	
未払法人税等	70,000	
未払消費税	504,300	
2. 固定負債		0
負債合計		5,555,053
正味財産の部		
1. 指定正味財産		0
アジア若者みらい基金	103,000	
当期指定正味財産増減額	△ 103,000	
2. 一般正味財産		5,001,174
前期繰越一般正味財産額	4,089,496	
当期一般正味財産増減額	911,678	
正味財産合計		5,001,174
負債及び正味財産合計		10,556,227

より詳しい決算報告書はウェブサイトから
PDF版をダウンロードいただけます。



p.22の「すっきり寄付」(古本募金を含む)欄に記載した金額(316,124円)のうち、額面金額分を「寄付金」として受領した286,116円と、p.22の「寄付者」欄に記載した金額(11,202,252円)の合計額が、p.23の「活動計算書」内の「受取寄付金」(11,488,368円)です。

p.22の「すっきり寄付」(古本募金を含む)欄に記載した金額(316,124円)のうち、業者を通じて換金した30,008円は、p.23の「活動計算書」内の「その他の収益」に含まれています。



編集後記



この9月には、長年 ACC21 の運営に携わった理事の慰労会、正会員との意見交換会を開催しました。長年のお付き合いにも関わらず、こうした機会は意外と少なく、お互いの新たな面を知る時間にもなり、夜まで話が尽きませんでした。

2024 年度は、ACC21 を長年率いた伊藤から長畑に代表が引き継がれ、新ビジョン、ミッションが決まるなど大事な時期となりました。ACC21 が大事にしている価値を守りながら、時代やニーズの変化をとらえ実行に移す、そういうしなやかな組織にしていきます。事務局ではネイティブ並みに英語を操る明るい石山さん、そして9月からはオランダの大学からフランシスカさん（インターン）が参加し、毎日笑いが絶えません。お近くにお越しの際はぜひ文京区本駒込の事務所にお立ち寄りください。

（鈴木真里／副代表理事・事務局長）



新ビジョン・ミッションや2030年までの中期ビジョンの策定にあたり、2022年度の下半期から役職員の間で議論を重ねました。私も事務局の一員として議論に参加し、ACC21の歩みを改めて振り返り、培ってきた経験と強みを再認識しました。中期ビジョンでは「若者とのチャレンジ」に焦点を当てることが決まりました。フィリピンでは、自立を目指す若者たちが「ビジネスを始めたい」「家を持ちたい」「グループで商売してみたい」など様々な夢を聞かせてくれます。活動を通じて、このような若者たちのチャレンジを後押しできるような努めます。

（辻本紀子／事務局次長、フィリピン事業・広報担当）



ACC21の仕事を通して、インターンに来ている大学生も含め、若い世代の方と接することが増えました。そこで思うのは「みんな学ぶ意欲や行動力がすごい！」です。今年度、「日韓みらい若者支援事業」の韓国スタディツアーに同行し、日本と韓国の若者が共に学び、歴史や社会問題について対話する場面を見てきました。自分の目で見て感じることの重要性、人との出会いや対話が及ぼす影響をあらためて実感しました。希望や可能性が溢れる人々と出会うことができるのがこの仕事の醍醐味です。皆さんを応援すると共に、自分も成長していきたいです。

（シャープ茜／日韓みらい若者支援事業・JPN担当）



インドネシアの伝統工芸イカット（絣）の後継者育成プログラムが、2024年度から始まります。描かれる模様（文様）は、土着信仰からくる祖先神や、精霊信仰による動物・花・鱗などの幾何学模様が描かれ、多くの時間と労力を要する工芸なのだそうです。地域地域に根差し、失われてしまったら二度と再生することができない技術。ACC21が、インドネシアの希少な工芸の後継者を育成するプログラムを実施することに、誇りを感じます。

（藤岡順子／経理担当）



私は元ストリートチルドレンです。フィリピンの現地 NGO・チャイルドホープ（ACC21 のパートナー団体）の助けで人生が変わりました。8年前、ACC21 が事務局をつとめる日比 NGO ネットワーク主催の「日比 NGO シンポジウム」に参加し、私のこれまでの人生について話す機会をいただきました。そして8か月前からチャイルドホープの職員となり、ACC21 のコンサルタントとして、私のこれまでの人生と経験を生かして重要な役割を担う機会を得ました。フィリピンのストリートチルドレンをゼロにするための挑戦に取り組んでまいります。

（ジュード・ナティビダッド／現地コンサルタント）



私は、大学で子どもの権利を研究するゼミに所属しています。カンボジアを訪れた際は、子どもたちの学ぶ環境や住む場所を見て衝撃を受けました。ACC21 では、広報活動や情報の整理、報告書の翻訳作業、イベントの企画・運営など幅広い業務に関わらせていただき貴重な経験となりました。業務の中で、フィリピンのストリートチルドレンの現状や厳しい環境でも力強く生きる若者たちの声を知ると同時に、実際に国際協力 NGO で働く ACC21 の職員の方々と関わることができたことは、私の今後に大きな影響をもたらしてくれるのではないかと感じています。

（石山芽依／学生アルバイト）



初めて日本を訪れ、ACC21 でのインターン活動を通じて日本について多くのことを学んでいます。また、「Project Bamboo：路上で暮らす若者の自立支援プロジェクト」に関わり、フィリピンについても多くのことを学ぶことができました。特に、フィリピンの子どもたちとその権利について学ぶ中で、法律がいくつもあること、それが現実には必ずしも実践されていないことを目の当たりにし、驚いたと同時に少しショックを受けました。もしこの事業に参加する機会がなかったら、法律とその実践の違いがあることに気づけなかったと思います。今回の経験で得た多くの学びを、将来に生かしていきたいです。

（フランシスカ・カルヴァーリョ／国際インターン）

特定非営利活動法人 **アジア・コミュニティ・センター 21**
(認定 NPO 法人)

団体概要

●所在地

〒113-8642 東京都文京区本駒込 2-12-13 アジア文化会館 1F

●設立

2005 年 3 月 (2009 年 10 月法人格取得、2016 年 3 月認定 NPO 法人となる)

●役員構成 (2024 年 6 月 21 日～)

代表理事 長畑 誠 (明治大学専門職大学院ガバナンス研究科長・教授、
一般社団法人あいあいネット代表理事)

副代表理事 鈴木 真里 (ACC21 事務局長)

理事

有川 凜 ((一財) RINDA foundation JAPAN 代表理事)

浜田 忠久 ((特活) 市民コンピュータコミュニケーション研究会 代表理事)

辻本 紀子 (ACC21 事務局次長)

監事

秋尾 晃正 (The Education for Development Foundation (タイ) 理事長)

鈴木 英子 (鈴木英子税理士事務所 所長)

アドバイザー

伊藤 道雄 (ACC21 チーフアドバイザー・前代表理事、(特活) 国際協力 NGO センター顧問)

太田 達男 ((公財) 公益法人協会会長)

ウェブサイト：<https://acc21.org>

電話：03-3945-2615

メール：info@acc21.org

(2024 年 10 月 1 日現在)

ご寄付のお願い

ACC21の活動は、皆さまからのご寄付や会費によって支えられています。
ACC21へのご寄付・賛助会費は、税制上の優遇措置の対象となります。
遺贈・相続財産へのご寄付についてのご案内資料もご用意しておりますので、お気軽にお問い合わせください。

【ご寄付・会費のお振込み先】

《ゆうちょ銀行》

口座番号：**00160-6-718320**

特非) アジア・コミュニティ・センター21

《みずほ銀行 駒込支店 (559)》

普通口座：**1120451**

特非) アジア・コミュニティ・センター21

※銀行振込の場合は、ご寄付者さまのお名前とご住所をメール (kifu@acc21.org) またはお電話 (03-3945-2615) でお知らせください。



詳しくはこちら。クレジットカード決済もご利用いただけます。

<https://www.acc21.org/donation/kifu/>



すっきり寄付

おうちに眠るものをお金に換えて、フィリピンのストリートチルドレン支援や日韓みらい若者支援をはじめとしたACC21の活動全般に活用させていただきます。

●集めているもの

1. はがき (書き損じ・未使用)
2. 未使用切手 (日本、外国)
3. 使用済み切手 (日本、外国)
4. 外国通貨 (硬貨、紙幣)
5. プリペイドカード (使用済・未使用)
6. トレーディングカード (使用済・未使用)
7. 商品券、株主優待券 (未使用)



●送り先

ACC21 事務所
すっきり寄付係まで!



ご送付前に、申込用紙または
下記 URL に記載の注意事項をお読みください。

<https://www.acc21.org/donation/sukkifu/>



※一部の物品は、額面分の寄付として受け付けています。詳しくは URL をご覧ください。



認定NPO法人

アジア・コミュニティ・センター21 (ACC21)

Tel:03-3945-2615 Fax: 03-3945-2692 Email: info@acc21.org

発行日:2024年10月31日 編集・発行:ACC21

●編集デザイン 有限会社プリントヒル

🌐 URL: <https://acc21.org>

📘 <https://www.facebook.com/acc21.org>

✂ X (旧 Twitter): @ACC21_NGO

📷 Instagram: @acc21_ngo